

2025 年度 8 月 第 4 回学生定例会議

1. 日時 : 2025. 08. 01 (Fri) 16:30 ~ 18:00
2. 場所 : 青葉サイエンスホール
3. 議事 :

清水康弘先生をお招きし、サステナビリティセミナーを開催した。最初の 1 時間で清水先生による「カーボンニュートラルとネガティブエミッション (carbon neutral and negative emissions)」と題したレクチャーがあり、その後 20 分程度でグループディスカッションを行った。最後の 10 分で各グループよりディスカッション内容の報告を行い、最後に清水先生よりコメントをいただいた。レクチャーは 3 つのテーマで構成されていた。1 つ目のテーマは「カーボンニュートラルとは」で、炭素循環の基礎についてご紹介いただいた。2 つ目は「吸収源対策：カーボンストック量の増減」で京都議定書やパリ協定に触れながら森林保全とカーボンストックの関係についてご紹介いただいた。3 つ目は「CDR: Carbon Dioxide Reduction from Air」で、2050 年カーボンニュートラルに向けた炭素回収の取り組みについてご紹介いただいた。

レクチャーの後にはグ 4 グループでディスカッションを行った。清水先生に 2 つのディスカッションテーマをご提案いただいた。1 つ目は「あなたができる行動の中で、カーボンニュートラルに貢献できるものにはどのようなものがあるか」である。それぞれの班から様々な意見が提案され、日常レベルではゴミの分別にしっかり取り組む、環境に配慮して製造された製品を購入する、公共交通機関を積極的に利用する、などの意見が挙がった。より大きなスケールでは原発の利用を促進する、ビルのグリーンカーテンを増やす、などの意見が見られた。また、なぜカーボンニュートラルを実現する必要があるのか、どのような取り組みが有効なのかを人々に示す活動が重要であり、そのためには私たち SyDE 学生のような人材が社会とアカデミアの架け橋となるべきだ、という意見もあった。

2 つ目のディスカッションテーマは「大気中からの二酸化炭素除去について、広範囲の環境改変を伴う地球工学的手法をどのように評価するか。支持するか支持しないか。」であった。これは賛否両方の意見が提案された。賛成派の理由としては地球温暖化による地球環境への影響がすでに顕在化しており、今から手を打つ必要がある、という意見が寄せられた。ただし、これらの地球工学的手法による環境への影響を十分に評価してから実施すべき、という慎重な意見も多くあった。反対派の理由もこの慎重論と似た理由で、地球工学的手法は生態系の破壊や災害の助長につながるのでは、という懸念が多く見られた。

これらのディスカッションを踏まえて、最後に清水先生からコメントをいただいた。ディスカッションの中で学生たちが感じたように、カーボンニュートラル実現のためには分野横断的な研究が必要である。またカーボンニュートラル実現を目指している 2050 年には、今大学院生である私たちが社会の中心になっている。これらの背景を踏まえて、SyDE に所属する学生がそれぞれの専門分野で研究を続けることに期待しているとのコメントをいただいた。

